

長尾福祉社会報

令和5年4月1日

第47号

様々な福祉ニーズに対応し、やりがいを感じながら
職員が働きやすい法人運営



福祉サービスの向上

ひとり一人が「幸せ」に感じられる暮らしの提供



利用者の一瞬一瞬を大切に

再生可能エネルギーの利用に取り組み
地球環境に配慮した事業活動を実施



環境への配慮

長尾福祉社会
SDGs宣言

地域交流を大切にしなが
社会貢献活動を実施



地域社会との共存

—長尾福祉社会理念— 障害をもっているも なくても 男も女も
「生まれておめでとう・成長しておめでとう・長生きしておめでとう」といえる
社会づくりをめざします。

～ご挨拶～

社会福祉法人長尾福祉社会 理事長 森田 浩之

新型コロナウイルスも鎮静化の兆しを見せ、少しずつ以前のように規制を解除した運営ができることが近づいてきているように感じます。しかし、内容としては以前と同じ福祉・教育を提供するのではなく、コロナで痛み、疲れ果て、新たに顕在化してきたニーズに対応していかなければならないと思っています。

そこで令和5年度は保育教育施設においてはコロナ前の行事体系に戻すとともに、高齢者・障がい者施設についても関係機関との連携をしながら段階的に平常時の運営に戻してまいりたいと思います。改めて、この3年間で福祉・教育を取り巻く環境は大きく変わりました。そしてこの間、つながり、持続可能な社会を目指す「SDGs」の法人評価にも取り組み、長尾福祉社会の社会での役割や今後目指す目標について再確認をいたしました。

このことにも留意をしながら今後の事業に取り組んでまいります。



SDGs宣言は
こちら

社会福祉法人は、「社会、地域における福祉の充実・発展」に寄与することを使命とし、社会福祉事業の安定的・継続的経営に務めるとともに、多様な生活課題や福祉需要に柔軟かつ主体的に取り組む公共的・公益的かつ信頼性の高い法人です。

のぞみ園

女子寮

夢の中のトランクかばん

生活支援員 高木 光佐子

毎日、ノートに自作のストーリーを書きつつっている利用者さんがいます。映画監督になりたい・映画を作りたいという想いを皆で実現してみました。セリフ・配役・衣装などにこだわり、映画さながらの撮影を行いました。完成した映画はクリスマス会で上映し皆で鑑賞しました。皆で作った映画「夢の中のトランクかばん」素敵なクリスマスプレゼントになりますように。



男子寮

楽しいお食事会

生活支援員 山田 和広

11月17日(木)、男子寮恒例のお食事会を行いました。今回は利用者のみならずからリクエストの多かった、ケンタッキーフライドチキンのツイスターボックスを用意しました。準備が整うと、みなさん待ちきれない表情で席に着き、満面の笑顔で大好きなフライドチキン&ポテトを食べ、野菜やチキンの入ったツイスターは夢中で頬張っていました。

おいしいものを食べ、大満足の昼食でした。



南寮

いつもと違った朝食を

生活支援員 原田 大輔

南寮毎月恒例お楽しみ会。今回のメニューは手作りおにぎり!

地元のスーパーで食材を仕入れ、前日より仕込みを行いました。具材はツナ、焼き鳥、キムチ、チーズなど、利用者さんの好きな具材を揃え、今回初めて朝食に行いました。何が起ころのかと不思議そうに見ている利用者さんたちに、職員が説明を行い、それぞれ好きな具材を選んで頂き、一人ひとりに合わせたサイズのおにぎりを握りました。味も好評で、食後にはオレンジジュースを飲み、お楽しみ会は終了しました。



次は何を作ろうかな?



通所

みんなで作る大切な時間

生活支援員 石井 雄策

通所生活介護では、11月より運動不足解消や筋力向上のために毎日のラジオ体操・歩行運動に加えプランクなどの体幹運動を実施しています。最初はみんな続けられるのか不安もありましたが、今ではまだ始まらないのかと目をキラキラさせながら待っているほど大切な時間となっております。支援員も含め全員で楽しく毎日取り組んでいます。

これからもこの活動を続け、みんなで元気に笑って過ごせる大切な時間を作っていきたいと思います。



キラリ★と光る芸術祭

サービス管理 千田 貴則
責任者

11月6日(日)〜7日(月)にサンポート高松にて、香川県障害者芸術祭2022キラリ★と光る芸術祭が開催されました。芸術祭の作品展においてのぞみ園の利用者さん14名の作品を出展することができました。作品展には2日間で700名以上の方が来られたと聞き、多くの方に作品を観て頂ける貴重な機会となりました。作品制作においては利用者さんの感性を大切にしながら自由な発想で一緒に取り組んでいきたいと思っております。



クリスマス会



生活支援員 浅野 ひとみ

みなさんはサンタクロースに何を頼みましたか?
12月20日(火)、一足早くのぞみ園クリスマス会を行いました。1カ月前からクリスマス飾りやツリーを出して、プレゼントに何をもらおうかとワクワクして待っていたと思います。カラオケやゲームを楽しんだ後にケーキを食べ、待ちに待ったサンタとトナカイを拍手で迎えるみんなの笑顔が私たちも嬉しくて、笑顔のプレゼントをもらった様でした。



もちつきDE獅子舞

生活支援員 川西 恵

12月24日のクリスマススイブにのぞみ園ではもちつきを行いました。今年初めて男子寮による手作り獅子舞も披露され、皆さん大変喜ばれていました。ひと足早いお正月気分を楽しむことができました。



のぞみ児童デイサービス事業所

サンタさんがやってきた

児童指導員 安部 政城

児童デイでは、終日利用日を中心に行事やグループ活動を行っています。
冬の行事といえば、子どもたちも楽しみにしているクリスマス会です。今回は、クリスマスの日がお休みと被っていたので、特別にサンタさんに26日に来てもらいました。クリスマス会は、みんなで自作のビンゴゲームを準備してチーム対抗で遊んで盛り上がりました。その後、サンタさんからプレゼントをもらったり、それぞれカップケーキを作って食べたりして楽しい時間を過ごしているようでした。
まだ厳しい状況は続いています。感染対策をしっかり行った上で、これからも子どもたちに寄り添った活動を行っていきます。



認定こども園 高松くりの木學舎



「小学校って楽しそう」

かぜぐみ (5歳児)

岡田 光代

花園小学校1年生が「秋のおもちゃまつり」にかせ組の子どもたちを招いてくれました。モグラたたきに魚釣り、迷路など、そこには秋に集めた松ぼっくりやどんぐりなど木の実を使った玩具がいっぱい。子ども達は心をときめかせて始まるのを今か今かと待っていました。1年生のお兄さんお姉さんたちが「こっちです」と案内してくれます。「おもしろいね」と楽しみなながらも「どうやって作ったんですか?」「これコップで作ったんや」と興味津々。優しく教えてくれる小学生に嬉しそうに応えながら憧れの気持ちも芽生えたようです。帰ってから早速「僕たちが玩具作ってみよう」とモグラたたきを真似て作って楽しんでいました。4月からは1年生になるかぜ組さんにとって今回の訪問は小学生たちの立派な姿に驚いたり小学校での生活を「楽しそう」と期待を持ちたりする良い機会になりました。



「感触あそびを 楽しんでいきます」

たんぼぐみ (1歳児)

伊藤 真理子

昨年、年賀状作りとして、子どもたちの大好きな感触遊びを取り入れました。絵の具の感触を楽しみながら指スタンプをするグループ、ヤクルトの容器にスポンジをはめ込み、ポンポンとスタンプ遊びをするグループと様々な方法で制作をしました。初めは絵の具の感触に抵抗が見られた子どもも、色々な色が混ざり合う様子に「もっとしたい」と夢中になって取り組んでいました。また、スタンプ遊びでは「自分で!」と言って自分でスタンプ台から色を付け思いのままにスタンプを楽しんでいました。これからも、様々な技法を使った遊びを子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。



「くりのキッズからくりの木へ」

くりのキッズ・一時預かり

くりのキッズもスタートから2年目です。登録してくれる子どもたちも増えて、現在延べ人数32名に増えました。コロナ流行の中、利用してくれる子どもたちが増え嬉しい限りです。くりのキッズの部屋のくりの木もいっぱいのお菓子が実っています。そんな中、くりのキッズからくりの木学舎へ入園するという嬉しいニュースが増え「キッズで生活していたからかな?落ち着いて生活できています」の声に、またまた嬉しい笑顔になりました。また、1回、2回の利用の子どもたちとの出会いもあります。お母さんにキッズを預けて(利用して)良かったと感じてもらえるように、キッズでの生活の様子を写真にしてプレゼントしたり、お母さんとの交換日記(連絡帳)をしながら、キッズでの出会いを大切に子どもたちの成長と一緒に喜び合えるキッズの存在になれるようにしていきたいと思っています。



「給食室でのアレルギー対応」

栄養士 原野 あや

高松くりの木学舎には色々なアレルギーを持つお子さんが登園しています。給食では、一ヶ月の献立をたてた後にアレルギーに配慮した変更献立を作成し、保護者にも渡しています。アレルギーに関わる献立は赤色で書き直し、どこを変更しているのかすぐに分かるようにしています。配膳する際は、アレルギー専用の赤いトレイに食札をつけ、献立によっては盛り付ける場所を変えて、ラップをかけて保育室まで運んでいます。給食室でのダブルチェック、保育室への連絡は誤配膳がないよう徹底しています。行事食を提供する際はみんなと一緒に楽しめるよう、アレルギーの原因となる食材を使わない献立を工夫しています。





認定こども園
長尾学舎

「クリスマス会」

たいようぐみ(1歳児) 向山 恵里

令和4年12月22日(木)、クリスマス会を行いました。どのクラスの子どもたちも「サンタさんくるかな?」「プレゼントはなにかな?」と、わくわく楽しみにしていました。サンタさんの登場に0、1歳児はびっくりして泣くこともありましたが、もらったプレゼント(お菓子の詰め合わせ)は、お家に帰って美味しく食べていたそうです。2〜5歳児は質問したり、椅子取りゲームをしたりとサンタさんとの交流を楽しみました。給食は、5歳児考案のクリスマスメニューに「おかわりしたい」と言う子も多く、モリモリたくさん食べ、お皿もピカピカになっていました。サンタさんと楽しい一日を過ごし、子どもたちの笑顔がたくさん見られ嬉しく感じました。



「生活発表会」

にじくみ(2歳児) 武山 理奈

令和4年12月3日、生活発表会がありました。出し物は子どもたちの大好きなお話「三匹の子ぶた」のオペレッタでした。今年が初めての発表会で、ステージに慣れるまで緊張したり、恥ずかしくて戸惑ったりする子もいました。しかし、音楽に合わせて子ぶた役、オオカミ役になりきり、何度もしているうちに子どもたちの方から「三匹の子ぶたするー」と、とてもワクワクした姿が見られるようになり、楽しんで本番では、一人ひとりが持てる力を十分に発揮して、楽しみな



「お店屋さんごっこ」

ほしくみ(3歳児) 西島 咲良

夏に行われた七夕祭りで、5歳児がお店屋さんをしている様子に「僕たちもやってみたい!」と興味を持った子どもたち。近所のお店屋さんを見学し、早速準備に取り掛かりました。中でも看板作りでは、「もっと大きい看板が良いな」「いろいろな色にしたら素敵だよ」と友だちと話し合う姿がありました。みんなで協力して出来上がったお店で「いらっしゃいませ」「いちごジュース1つください」とやりとりをする中で、子ども同士の関わりがより一層深まったように感じます。今後も、友だちとの関わりを楽しみ、遊びを広げられるような環境を設定したいです。



「長尾学舎子育て支援センター にじいろ」

子育て支援員 中塚 千恵美

にじいろでは毎月色々な行事を計画しています。米粉クッキングでは、お子さまの健康のことを考え、米粉を使いたいという保護者が増えてきています。初めての方でも簡単に美味しいレシピを教えてください。また、地域交流の1つとして「子育てサロンおひさまひろば」主催の親子体操教室や芋ほり、お話し会などの行事にも参加しています。いつもと違う場所でお友達と楽しい時間を過ごします。マンスリーフォトや毎月のフォトコーナーでの写真撮影も人気です。衣装もたくさんあり、保護者から喜んでもらっています。インスタもぜひご覧ください。



ゆたか荘

ゆたか荘開荘23周年を祝い

副施設長 高村 えりこ

3月1日 ゆたか荘は開荘23周年を迎えました。昨年はコロナ禍により施設内での対策に追われた一年でした。ご利用者にとっても外出を控え、「ご家族との面会もままならない状況でありましたが、そのような中でも、職員に対して笑顔での挨拶や感謝の言葉を掛けていただき、またご家族からの励ましのお言葉に救われたりと、改めてご利用者・ご家族に支えられてゆたか荘がある事を実感しています。今後、コロナの状況を新しい生活スタイルと捉え、利用していただく全ての皆様と共に支え合い、笑い合う施設でありたいと思います。また、そのような年長者をお手本に誰かを笑顔にできる職員が育つゆたか荘を築きたいと思えます。



節分豆まき

2階介護職員 大池 庸司

2月3日 この日の昼食はもちろん巻き寿司。配膳をしながら鬼と一緒に写真撮影。驚きながらも皆さん笑顔。巻き寿司も好評で食の細い方もしっかりと食へられていました。レクの時間には鬼退治!どこかで見たことのある顔をした鬼が現れました。今回は豆代わりに玉入れの球で退治です。「えーいっ!!」と全力投球。小さい球が難しい方にはベットのボトルに貼った鬼を退治していただきました。大きな鬼に周りのご利用者も驚いたり喜んだり、皆さんいい顔でした。今回、豆は撒かなかったのですが、節分の雰囲気を楽しんでいただけました。



認知症サポーター養成講座

主任生活相談員 須佐美 和生



長尾小学校での認知症サポーター養成講座に参加させていただきました。認知症を理解するという難しいような講座なので、クイズ形式の劇を行うなど、児童に少しでも興味を持ってもらえるよう努めました。児童たちは真剣に講義を聴き、それぞれの質問にしっかりと答えてくれました。『高齢者の4人に一人は認知症になる事に驚いた』との意見が多く聞かれました。また『今回学んだ事を生かしたい』との意見も多く、今後の活躍を楽しみにしています。



職員紹介

2階介護職員 唐渡 綾乃

早いもので、ゆたか荘へ入社して10年目を迎えます。職場では年数も経ち中堅職員という立場にいますが、今も先輩後輩に関わらず周りの職員の動きを見て勉強し、自分もまだまだ足りない部分が多くある事に日々気づかされています。

ご利用者の喜ぶ笑顔が見られるよう、これからも多くの事を学び吸収し、業務に活かしていきたいと思えます。



デイサービスセンターゆたか

心身ともに…

副センター長 香西 卓也

コロナ感染症に翻弄されたここ数年、感染対策のなかでのご利用で何かとご不便をおかけしましたが、ご理解・ご協力を頂きつつ、皆様の前向きな姿勢に大いに励まされました。

コロナ前でも、コロナ禍であっても変わらず、「住み慣れた家で今の生活を続けていきたい。」が、皆さんからよく聴こえてくる言葉ですが、私たちはその言葉のお手伝いとなるよう、様々な選択サービスをご用意しております。

身体的にも精神的にも状態維持・向上に繋がるプログラム作りを試行錯誤しながら、その方に添う支援を今までも、これからも取り組んでいきたいと考えております。



高齢者複合施設 ハーティヴィラ亀鶴 デイサービスセンター



お誕生日を迎えるご利用者の皆さまへ、ささやかな気持ちです

ヘルパーステーション サービス提供責任者 寺島 理香



ハーティヴィラ亀鶴デイサービスセンターでは、毎年ご利用者のお誕生日には趣向を凝らした誕生日プレゼントをお贈りしています。今年のプレゼントは、本人様の笑顔の写真が入った手作りの写真立てです。お誕生日には、このプレゼントをお渡しするとともに、職員とご利用者の皆さんでハッピーバースディを歌って拍手でお祝っています。

また来年のお誕生日まで、お元気でハッピーな毎日を過ごせますように…！





ハーティヴィラ 亀鶴

ハーティヴィラ亀鶴 ショートステイセンター

「すみません」の代わりに……

ショートステイ・ケアスタッフ

八十岡 英樹

「すみません」なにかとよく使い、また重宝する言葉でもあります。例えば誰かに話しかけるとき、または何かをお願いするとき、そして「ありがとう」を言うとき、ついつい「すみません」と言ってしまう……こんなこと、ありませんか？

同じ「ありがとう」の気持ちを伝える場面でも、遠慮がちに「ごめんね、すみません」より、まっすぐに「ありがとう」と言ってもらえた方がうれしく感じますよね。

わたしたちも、ご利用者の皆さんへの感謝の気持ちは「ありがとう」と伝えるように心がけています。ご家族や周りの方々も「すみません」より、あなたの「ありがとう」を待っているのではないのでしょうか。



● ケアプランセンターゆたか ●

～「自分らしい生活」を応援します～

センター長 鎌倉 節子

ケアプランセンターゆたかでは、現在5名の介護支援専門員が相談業務を行っています。「介護のことで悩んでいる」「ひとりで困っている」ということはありませんか。お一人おひとりに合った暮らし方を、一緒に考えていきます。お気軽にご相談ください。

ケアプランセンターゆたか

住所：さめき市長尾西 1602-1

電話：(0879) 23-6518

(受付時間)

月曜日～金曜日 午前 8:30～午後 5:30

◎ご相談の費用は、無料です。



編集後記

春は新学期や新生活など新しい事が始まる季節です。変わらない日々の中でも、ポカポカした陽気に気持ちまでウキウキしてきます。コロナと共存した新しい生活スタイルを取りながら、毎日に楽しみを持って過ごす皆様の素敵な笑顔が集まりました。

(ゆたか荘 高村)

学校で「人権」について学び、長尾小学校1・2年生が大切に育てた「じんけんの花」がゆたか荘にプレゼントされました。ゆたか荘のご利用者からは、「お花きれいですね」「これからもお花を眺めに、外に出る機会が増えます」「小学生からのやさしい気持ちが嬉しいです…。ありがとう！」と、たくさんのお花を眺めに、外に出る機会が増えました。



「古道貝屋トラノコ」山名 志幸様
石濱 英信様
和田 英信様
かねとう 英信様
か木村 高み様
冬木村 高み様
植村 高み様

ご支援
ありがとうございました

「じんけんの花」 ありがとうございました